

シンエイグループ 特許取得 スーパーソニックFLEXα

新洗浄で高精度印刷維持

いよいよ本格的に始動

開発経緯を聞く

シンエイグループ(株)FLEX(東大阪市)は、「スーパーソニックFLEXα」(3年3月7日号既報)について、段ボール現場での試験運用データを元に、更なる機能強化と量産体制構築を行なった。特許取得を機に大手中小を問わず、洗浄作業の効率化、印刷の長寿命化などメリットを提案、拡販を図る。永沼眞治シンエイグループ会長と吉田工業(株)(東京都大田区)の吉田敏(さとし)社長、吉田悟(さとる)専務に、開発経緯など聞いた。

永沼「3月にスーパーソニックFLEXαの記事後発表以来、多くの皆様から問合せいただき、まずは本当にありがとうございます。当初計画より試作機製造、試験運用、量産体制が整うまで時間がかかり、価格も少し高額になるが、『これはイイよね!』と長く愛用いただける洗浄機を作りたかった。

段ボールはどこで作っても同じと言われがちだが、印刷とそれによって生み出される印刷は全て違ふ。新版のまま10年使っていただけの印刷を目



吉田社長

当初は試作機があったが、洗浄能力や操作性などまだまだ改良の余地があると判断し、ここから先を任せられる技術力を備えたメーカーを、近隣の関西に限定せず全国規模で探して見つけたのが吉田工業。吉田社長と出合い、仕事への熱意に共感し合っており、考案機はデザインなど更に良く、素



永沼会長

晴らしくなって、いよいよ販売機へと実現に向かっている。ワクワクするねえ」

吉田「ありがとうございます。当社は1958年にキュービクルや配電盤等の筐体製作で創業し、搬送、高圧、超高压装置、オリシナル自動機など豊富な設計、製造経験をもつ、真剣かつ実直にモノづくりと対峙してきた。その姿勢が永沼会長とのご縁に繋がったのではないかと感じています。

実際に会って、会長の熱い思いを強く感じた。我が社総出で、安定した高品質なものを造っていききたい、良いものを造っていききたいと強く考えています」

永沼「よろしくお願



吉田専務

シンエイ工場では初めて版を作る工程を見たが、もちろん素晴らしい。工程は機械化されていましたが、出来上がった一つ一つのパーツを正確な位置に丁寧に仕上げている様子、同じモノづくりをしている人間

としまして、版を守るため良いものを作りたい。洗浄こそ大事、と実感しました」

永沼「本機の超音波洗浄に関して、吉田さんから少し説明して下さい」

吉田「超音波洗浄は、眼鏡店の店頭にある洗浄機でお馴染みですが、本機も超音波振動を利用しているという点は同じです。本機は波長、周波数、ワット数等のパワーが違い、更に研究されたオリシナルブレンドの専用洗浄剤NEWスーパークリンがそのパワーを促進する。

要約すると本機は、非接触の超音波効果を活か

様が満面の笑顔になる機械を造りますので、ご期待下さい」

永沼「頼もしいですね。お客様も忙しい業務をこなし、メインの機械以外はなかなか手をつけられず、新しく考え直す機会も少ないと思うが、本機と専用洗浄剤の効果を実感していただければ、手間は勿論の事、改版ゼロも実現できる。洗浄後の版を自動で整理をするオプションも用意する予定ですね?」

吉田「そうですね。洗う、収納する、寿命を最大限に伸ばす、これらによってコスト削減にもなり費用対効果も抜群。印刷を見せたら、非常に細かい網点、細い線、微妙な曲線、目視でさえない溝まであるとか。それは永沼会長の仰るように、ブラシ洗浄では落ちず洗浄剤が強ければ版が弱る。そこで超音波の出番となる。会長の鋭い目が、隅々まで行き届

くということですね」

永沼「(笑)印刷は、オフセット・グラビアからフレキシ印刷へと変貌を遂げています。すでにヨーロッパではフレキシ印刷が主流。環境問題にも対応できるフレキシ印刷は万能ということになって。印刷メーカーとしてだけではなく、お客様が本当に必要とされるものを、必要とされるサービスを提供したい。その想いで2022年10月開催のTOKYOOPACKに臨みます。Made in

n吉田工業のスーパーソニックFLEXαはNEWスーパークリンと共にシンエイグループも前進あるのみです」

吉田「永沼会長の、製版トップとしてのポリシーは強く感じており、これから共に歩めることが楽しみです。こちらこそよろしくお願

いよいよ本格的に始動